

アクロスゲート グローバルソフトウェア

東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-5
蛸殻昭光ビル5F
TEL.03-5847-2155
<http://www.acrossgate.com>



加藤忠晴 社長

仮想化によって実機を不要に

「ACROSSVT」

組み込みシステムの開発など

開発・検査・教育に貢献

オフショア開発にする場合、実機を持っていきづらいという問題がありました」

そう話すのは、アクロスゲートグローバルソフトウェア株式会社（資本金2100万円）の加藤忠晴社長。同社は加藤社長と同じく代表取締役の三好和明氏が開発した仮想化のソリューションで、こうした問題を解決する企業だ。

「ACROSSVT」のブランド名で展開するこのソリューションは、1台のパソコン上に実機を再現してシステムが開発できるというもの。

「開発していく中で、実機も日々仕様がかわっていく。それを都度、現地に運ばずに済むのは、製品の市場投入時間の短縮にもなります。研究開発時点でも実機に手を加える手間が減るので便利です」と説明する加藤社長。さらに、この「ACROSSVT」の仕組みは、検査の工程にも役立つという。

例えば、多数のコンピュータからの指示を受け、多数のプリンターなどの機器を制御するコンピュータである、サーバーの検査に有効だ。

「ノートパソコン1台で100台分の実機が再現できる。サーバーにアクセスするコンピュータであるクライアント

トの数やサーバーが制御するプリンターなどの個数も任意に設定できる。サーバーの評価環境が容易に構築できます」（加藤社長）



「AcrossVT」の実行画面イメージ

仮想化のソリューションを、教育の分野にも応用するという。

組み込み系システム開発の技術者は不足しているといわれる。その要因の1つには、教育の場の不足があるようだ。

「実機が要らないなら、コストや効率面からも取り組みやすい。インターネットを用いたeラーニングによって、先生がその場にいらなくても学習ができます」（加藤社長）

開発や検査、教育の分野をカバーする「ACROSSVT」。価格にもこだわっているという。高価だと試してみようかという気にはならないので、現場レベルでも決裁できるような配慮からだ。

オフショア開発で実績

教育や翻訳、国際貢献も

そもそも同社は、10年以上のオフショア開発の実績がある大手企業の出身者を中心

に構成され、2004年に誕生した。

当初は日本とフィリピンなどの間のオフショア開発の橋渡し役を務めるブリッジSEとしての業務が主だった。

「文化や言語、姿勢、手法など違いが数多くある。技術だけでなく日本語を教える教育や、お互いの言語のマニュアルなども専門的に翻訳する『IT翻訳』の業務にも拡充していきました」（加藤社長）

国際貢献も行う。財団法人海外技術者研修協会（AOTS）に協力。フィリピン大学の講師への教育など、ODA予算を活用し、開発途上国の組み込みシステム開発の技術者育成に取り組んでいる。

こうした背景から生まれた自社製品が「ACROSSVT」。ITの新たなゲートが、同社によって開かれる。（亀

IT業界では、安い人件費を求めて、海外の技術者に開発を委託するオフショア開発の仕組みが浸透している。「家電製品などにコンピュータを搭載し様々な機能を実現する組み込みシステムの開発の需要が、昨今のIT業界では増えています。これを